

杓子にて煉る、
右のむきみを、煉りたるりんごの中へ入れ、箸にてかき合せて、盛るべし、

文苑

○春 望 肥塚南山

此處彼處みかへるおもはかすみつゝ、

錦色そふ麥ふなの花

○山 吹 前野壽賀子

行春をしはしとゝめてわし垣の

八重山吹は咲き出でにけり

○春 風 若海 保子

かけろふのをの、百草おしなべて

緑ふかむる春風ぞふく

○閑座春雨 横田やな子

つれくと訪ひくる人を待わびて

なかめくらさん庭の春雨

○春 月 横田 秋足

伊吹ふるしまだ寒けれど淺妻の

渡りにかすむ春の夜の月

○水邊 柳 小島平

いなむしろ河をひ柳ふく風に

○山家鶯 鹽野奇零

梅かほる風のためよりにさそはれて

山家の垣にうくひすのなく

おさな子 郁 子

軒の櫻はほころびて

卵の花匂ふ垣のもと

でんく太鼓や犬張子

いつしか母の膝により

乳房ふくみて幼な兒は

可愛ゆき笑窪たへつ

髪世の科も人の身の

神にも似たる姿して

汝が少さき其胸は

來る髪影もなく

尚清らかに澄みぬらん

春をば送り秋を迎へ

重き務をつくせかし

天は汝を守るなり

蝶の羽風もいと儼に

緑の芝生に打ふして

楽しく持ちて遊びしが

うすくれなゐの唇に

樂しき遊びを夢みてか

安さねむりに入りにけり

犯せるつみも稚兒は

愛のしとねに打ふせり

過し涙のおともなく

谷の清水のそれよりも

尙其まゝに幾度の

いと安らかに人の世の

幸多き世を送れかし

自然は汝を慰めん